


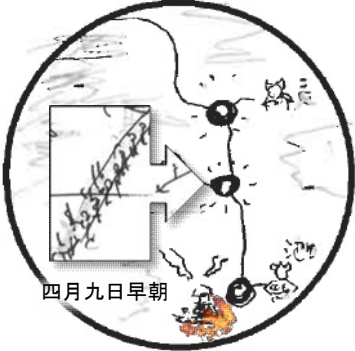
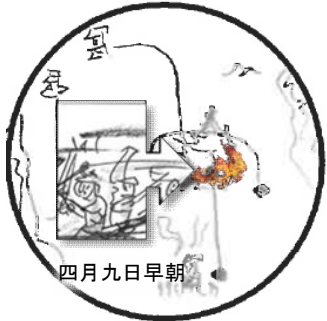



小牧・長久手の戦い  
ジオラママッピング

演出構成


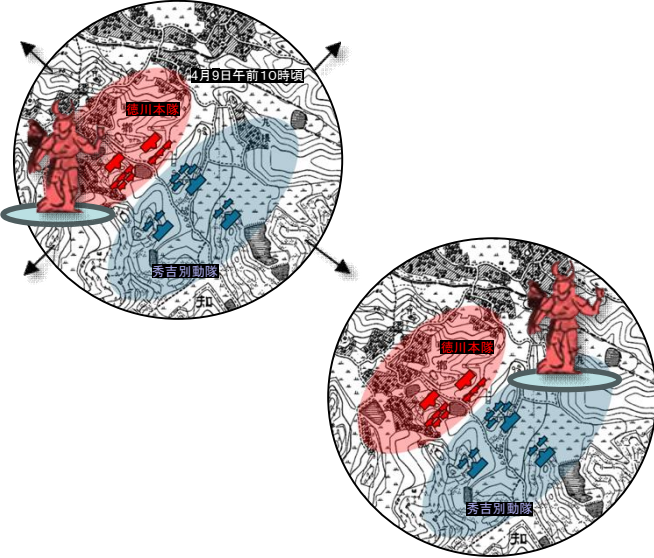

映 像	ナレーション・内容
<p>【シーン1: 導入 (0:00~0:40)】</p> <p>▶地形模型に航空写真などの現代の街並み、雲や飛行機など、リアルタイムような動画</p>  <p>▶一部分にスポットライトのような演出 模型の上に武将 池田恒興が立ち挨拶する イラストはシアターと共有</p>  <p>池田恒興(勝入)</p> <p>▶タイトル浮かび上がる 「長久手の戦い」</p>  <p>池田恒興が観客に語り続ける</p> <p>▶タイムスリップ表現</p> <p>アニメーションで 周りの地形が変わっていく</p>  <p>ラインや影など 3Dマッピング表現で 立体感のある動き</p>	<p>(現代の風景：住宅街、道路、ビル、空撮で広がる長久手の街)</p> <p>(池田恒興ナレーション)： やあやあ、よくぞ参られた。</p> <p>この穏やかな町で、 実は——かつて天下を揺るがす戦があったこと、 そなたは知っておるか？</p> <p>そう、「小牧・長久手の戦い」の局地戦、「長久手の戦い」じゃ。</p> <p>のちの日本の流れを大きく変えた、大大名たちの激突が、 ここで繰り広げられたのじゃ。</p> <p>わしは名を、池田恒興、またの名を池田勝入と申す。 秀吉公に仕えた武将のひとりじゃ。</p> <p>なぜわしが語るのか？それは、わしこそがこの戦いを、 最前線で見届けた男だからよ。</p> <p>誰が動き、誰が倒れ、何が起こったのか——わしが見たままを、 これよりそなたに語って聞かせよう。</p> <p>さあ、時を戻すぞ。</p>

映 像	ナレーション・内容
<p>【シーン2:過去へ 戦の背景】</p> <p>▶模型への地形は1584年を彷彿とさせる地形へ</p> <p>恒興は周りを見渡す</p> 	<p>(池田恒興ナレーション) :</p> <p>おお、ここは間違いなくあの頃の長久手じゃ！ 現代と比べると随分と山や森が広がってるな。</p>
<p>▶背景が暗くなり、本能寺を中心とした日本が浮上炎に包まれる</p> <p>▶日本地図に秀吉の勢力を表す青墨が広がっていく。 勢力は各地の戦いからも広がっていく</p> 	<p>さて、今がどんな時代かというと、時は、天正十二年。</p> <p>三年前の本能寺の変にて織田信長さまが討たれ、その後継者の座を巡り、天下は大きく揺れ動いた。</p> <p>中でも羽柴秀吉殿は勢いを増し、力を強めてゆかれた。だが、それを良しとせぬ者もおった。</p> <p>信長さまの次男、織田信雄殿。信雄殿は、秀吉殿の動きに反発し、徳川家康に助けを求めた。</p>
<p>▶地形変化 小牧山城と楽田城の位置関係 距離感と 各城の周りの兵の人数など イメージさせる</p> <p>▶太陽の浮き沈みと昼夜の演出 にらみ合いの表現</p> <p>各陣の上に秀吉と家康の姿</p> 	<p>織田・徳川織田連合軍が小牧山城に、秀吉殿は楽田城に本陣を置き、大軍を従えた。だが、兵の数だけでは勝てぬのが戦の常。両軍、にらみ合いが続いた。</p> <p>この膠着を破るため、わしらはとある策を実行に移した。</p>

映 像	ナレーション・内容
<p>【シーン3: 別動隊の出陣】 1」</p> <p>▶ 模型の地形に変化 タイトル 「三河中入り」</p> <p>以降、 日付と時間が常に表記 マップ上に恒興が立ち戦局を解説</p> <p>▶ 楽田城から別動隊が出陣 背景が暗くなり夜を表現、 たいまつによる隊列</p> <div data-bbox="440 178 743 478">  <p>三河中入り作戦</p> </div> <div data-bbox="763 242 1066 535">  <p>四月七日未明</p> </div>	<p>(池田恒興ナレーション) : 別動隊を使い家康が留守にしておる岡崎城を突く、 作戦の名は——のちの世では、三河中入りとも言われておる。</p> <p>四月六日夜半、わしらは動いた。大將は三好秀次殿。 わしと森長可殿が先行し、列を引いて進む。</p> <p>これは隠密行動、敵に悟られぬよう細い山道を抜けていく。</p>
<p>▶ 小牧山から サーチライトのような演出</p> <p>徳川勢が小牧山から 小幡城へ移動をしていく</p> <p>別動隊は途中拠点 経由しながら移動</p> <p>時間軸に合わせて 天候昼夜変化</p> <div data-bbox="440 592 743 892">  <p>四月七日未明</p> </div> <div data-bbox="763 656 1066 949">  <p>四月八日</p> </div>	<p>だが、この動きは織田・徳川方に察知されておった。</p> <p>八日にはすでに、織田・徳川方がこちらを追って ひっそりと動き始めていたのじゃ。</p>
<p>▶ 先鋒の池田の位置に 恒興が現れる</p> <p>恒興の視点が 付近に広がる</p> <p>岩崎城での戦いの様子 (シアター共有)</p> <p>戦場のポイントは火が上がり 激突を表現</p> <div data-bbox="440 995 743 1295">  <p>四月九日早朝</p> </div> <div data-bbox="763 1059 1066 1352">  <p>四月九日早朝</p> </div>	<p>そして、九日の早朝。岩崎付近に差し掛かったとき、 岩崎城から攻撃を受けた。</p> <p>わずか三百程度の、手薄な守りだったゆえ、一気に制圧した。 だが、問題は別にあった・・・</p>

映 像	ナレーション・内容
<p>【シーン4: 白山林、桧ヶ根】</p> <p>▶恒興が軍列の伸びを俯瞰で解説する</p> <p>羽柴軍の列だけハイライト 距離感なども表示</p> <p>狭い山道を歩く様子が ワイプで登場</p> 	<p>(池田恒興ナレーション) : 空からわしらの軍をよく見せてやろう、</p> <p>狭い山道のせいで軍列がこんなにも伸びておる、 これでは連携も取れん。</p> <p>わしらが岩崎を攻める頃、三好殿の本隊や堀殿は遙か後方にて、 兵を休ませ、朝飯を取って油断しておった。</p>
<p>▶小幡城からの 徳川軍の動き</p> <p>ラインが伸びてきて 別動隊最後尾にぶつかる</p> <p>その位置にズームアップ</p> <p>▶薄暗い早朝 榊原隊が休憩中の三好隊に 襲いかかるシーン (シアターイラスト) 戦場の場所に炎が上がる タイトル:「白山林の戦い」</p>  	<p>そこへ——(徳川軍の動きが小幡城から伸びてくる)</p> <p>織田・徳川方の榊原康政隊が背後から襲いかかった。 (ズームインして榊原隊が突入)</p> <p>三好兵の声:「て、敵襲だー!!!」 榊原兵の声:「蹴散らせー!!!」</p> <p>まだ薄暗い早朝、三好隊は混乱し、一気に崩された。 この戦い——のちに「白山林の戦い」と呼ばれることとなる。</p>
<p>▶再び模型地形に</p> <p>三好を破り進む榊原</p> <p>再び現地にズーム 桧ヶ根の戦いの様子</p> <p>ズームアウトし、 模型に戻ると 御旗山の位置に家康の金扇が 立つ、それを見る堀の姿が ワイプで浮かび上がる</p> <p>戦場の場所に炎が上がる タイトル:「桧ヶ根の戦い」</p>  	<p>榊原隊は三好殿を破った勢いそのまま進撃したが、 森に伏せていた堀秀政殿の軍に返り討ちに遭う。</p> <p>わずかな時間で勝ちと負けが入れ替わっていく、これが戦じゃ。</p> <p>堀殿はその後、近くの御旗山に掲げられた家康の金扇の馬標を 目にし、家康本隊が近くにいと知って退いた。</p> <p>これが「桧ヶ根の戦い」と呼ばれている。</p>



映 像	ナレーション・内容
<p>【シーン5: 仏ヶ根に集う】</p> <p>▶恒興が岩崎城付近に立つ 軍が反転し戻りだす</p> <p>御旗山に家康が立ち 周囲を見渡し移動を開始する</p>  <p>四月九日早朝</p>	<p>(池田恒興ナレーション) :</p> <p>岩崎城に白山林の敗走の知らせが届くや、 わしは軍をすぐに反転させた。</p> <p>その頃すでに、家康は御旗山に登り、戦況を俯瞰しておった。 仏ヶ根の地での決戦を見越し、高台へと布陣を開始していたのだ。</p>
<p>▶マップは仏ヶ根にズームアップ</p> <p>恒興が登場し解説</p> <p>各軍が配置についていく</p> <p>羽柴と徳川で色分け 小さな群衆の集合体で 軍は表現 人物感</p> <p>羽柴軍</p> <p>徳川軍</p>  <p>4月9日午前10時頃</p> <p>徳川軍</p> <p>羽柴軍</p> <p>和</p> <p>▶カメラが地上に降りるように 急降下 そのままシアターの ドローンアングルに切り替わる</p>  <p>4月9日午前10時頃</p> <p>徳川軍</p> <p>羽柴軍</p> <p>和</p>	<p>わしらもそれに応じる形で、仏ヶ根に布陣した。 まず、羽柴方の布陣を見てみよう。</p> <p>羽柴方は総勢およそ九千。三つの部隊に分かれておる。 息子の元助が右翼、森長可殿が左翼。 わしはその中央やや後方に控えた。</p> <p>対する織田・徳川方——井伊直政殿がおよそ三千を率いて正面に、 家康本隊が六千余を控える。 (徳川家康軍三千三百余り、織田信雄軍三千余り?)</p> <p>両軍の布陣は、互いに真正面からぶつかる形。 戦力は、織田・徳川方およそ九千三百、羽柴方およそ九千。数は、ほ ぼ互角。</p> <p>しかし、相手には家康本人が出ておる。 ならば逆に、首を取るまたとない機会よ。 武將たちの目にも、気迫がみなぎっておった。</p> <p>そして——九日、午前十時ごろ。両軍、布陣を完了したのじゃ。</p>

映 像

ナレーション・内容

【シーン6: 決戦 仏ヶ根】

▶軍の様子が細かく  
変化していく

画面は戦闘の変化のある  
ポイントにズームしたり  
引いたりしながら  
観客は俯瞰で戦場の  
リアルタイム感を感じる

間にシアターイラストが  
差し込まれる

井伊と元助が近づき  
鉄砲の打ち合い

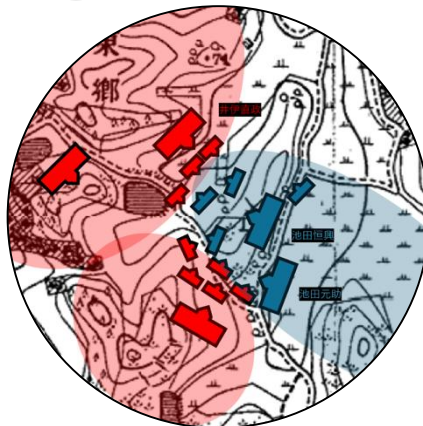
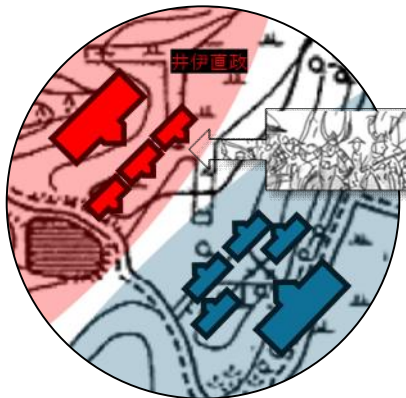
家康本隊が動き  
森が迂回し家康本陣に迫るが

鉄砲によって討死

森隊瓦解

池田本隊と家康本隊が  
ぶつかる

※動きの参考は  
軍配置参考映像を作成済み



(池田恒興ナレーション) :

最初に仕掛けてきたのは、徳川方・井伊直政殿の隊。  
赤備えの甲冑軍装に身を包み、およそ三千の兵がこちらへ迫って  
きた。

まずは、右翼の元助の隊とぶつかった。  
ここまでは、一進一退の攻防。

続いて、家康本隊も前へ出てきた。

それを見た森長可——さすが“鬼武蔵”の異名を持つ男じゃ。  
敵の本陣が手薄と読むや、およそ五百を率いて山を迂回。  
首を取る好機と踏んだのじゃ。(森隊が尾根を越えて回り込む)

だが、徳川の鉄砲隊が待っていた。  
森長可殿はあと一步のところで討たれてしまった。

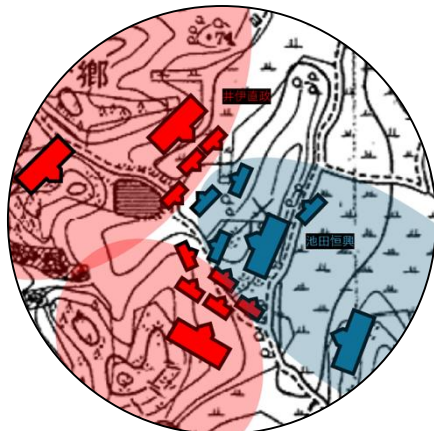
わしもすぐに前へ出たが、時すでに遅し。  
森隊は壊滅し、その隙を突いた家康本隊は、  
勢いに乗ってわしらの側面へと回り込んできたのじゃ。

## 映 像

## ナレーション・内容

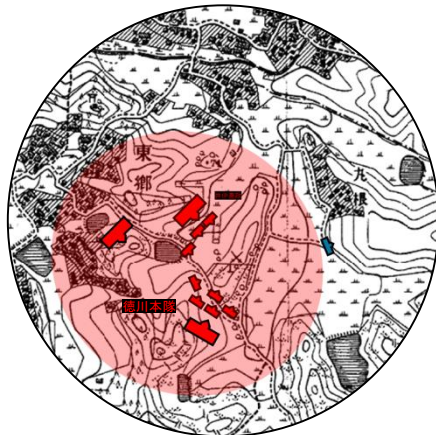
## 【シーン7: 決着】

▶攻め込まれ  
陣形が崩れていく  
池田軍

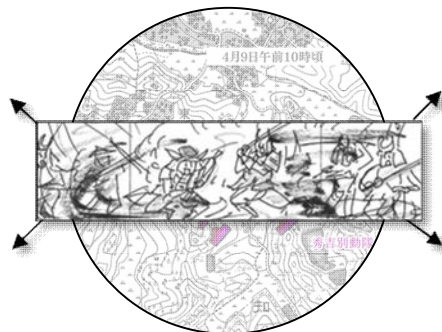


一度引いた元助が再び  
前線に向かうが

池田恒興と元助は  
討ち取られる



シアターシーンが  
印象的に入る



(池田恒興ナレーション) :

戦線は崩れ、混戦となった。  
元助の隊も徐々に押され、陣形が乱れていく。  
元助は一時、引いた。だが、敵方の勢いは止まらぬ。

正面の井伊直政、側面から責め立てる家康勢、

・・・ついに包囲される形となった。

わしの窮地を見た元助は単騎で救援に駆けつけようとした。  
だが、間に合わなかった。

わしはその目前で討たれた。  
そして——追うように、元助もまた斃れた。

池田父子、ここに潰える。



## 映 像

## ナレーション・内容

## 【シーン8:その後】

## ▶戦場跡

恒興が模型に立ち  
全体が暗い霧になり  
恒興にスポット演出

▶暗い霧の部分に  
駆けつける秀吉と  
帰還する家康の  
ルートが浮かぶ

秀吉がどこまで行ったのかわかるように、  
引いた画で、長久手との位置関係を示す

▶暗い霧の部分に  
秀吉と織田の  
和睦シーン  
徳川の家紋が  
ゆっくりと浮かび上がる▶暗転から白背景  
台詞に合わせて  
タイトル  
「長久手の戦い」が決まる

長  
久  
手  
の  
戦  
い



（池田恒興ナレーション）：

……こうして、戦は終わった。

秀吉殿は急ぎ二万の兵を率いてこちらに向かわれたが、  
家康はすでに小牧へと帰還しておった。

この長久手の戦い、勝利を収めたのは織田・徳川方。

しかし、その後、秀吉殿は織田信雄殿と和睦を結び、  
やがて天下を手中に収めることとなる。

——が、この戦いで家康が力を示したからこそ、  
後の歴史が決まったのかもしれぬ・・・

それが、この戦、  
長久手の戦いの面白いところよ！

映 像	ナレーション・内容
<p>【シーン9:エンディング】</p> <p>▶1584年の模型地形から 現代に地形が変化 マッピング演出</p> <p>現代の地形へ</p> <p>▶恒興、観客に礼をする マップ上に戦いの史跡が ポイントされていき</p> <p>勝入は消えていく</p>	<p>(池田恒興ナレーション) : あれから、およそ450年の月日が流れた・・・</p> <p>かつての戦場も、 今では人が行き交う穏やかな良い町となっておる。</p> <p>さて、ここまで耳を傾けてくれて、礼を申す。 もしこの地に立ち寄ることがあれば、少し歩いてみてくれ。 いまもいろいろな場所に、あの頃の気配が息づいておる。</p> <p>それらを通じて、 あの時代の空気をほんの少しでも感じてもらえたなら、 わしとしても嬉しいことだ。</p>
<p>▶そのまま現代の マッピング状態で</p> <p>史跡のポイントに 写真が浮かぶなど アイドリングタイムへ移行</p>	